

会 議 の 概 要

1 会 議 名 (審議会等名)	宝塚市エイジフレンドリーシティ行動計画策定委員会 (平成 28 年度第 1 回)
2 開 催 日 時	平成 28 年 6 月 1 日 10:00~12:00
3 開 催 場 所	研修室
4 出 席 委 員	藤田綾子、岡絵理子、金岡重子、溝口由加子、木本丈志、新谷俊廣、 多田嘉則、戸川進、村上健一
5 公開不可・一部不可 の場合の理由	
6 傍 聴 者 数	1 人
7 公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可
8 議題及び結果の概要	<p>1 協議事項</p> <p>(1) 総論の検討について</p> <p>・第 4 章 計画の基本理念</p> <p>(委員) 前回もそうであったが、「活力ある」の記載がある等、) 計画全体が元気な人・動ける人を対象にしているように見える。要介護者等支援が必要な方に対する施策が欠けている感じがする。</p> <p>(事務局) 本計画は広い層を対象とした計画であると思う。今日は議事に無いがトピックの一つに保健サービスの分野もあるため、そこでは介護保険制度等の記載がある。但し、介護なら介護保険事業計画等各分野に計画がある。広げすぎた対象をこの計画に逐一記載するのは難しいので、各分野の計画とこの計画のつなげ方について整理が必要である。</p> <p>(委員) この章は理念であるので、オールアバウトで全ての層を見ているとの記載ができればいいと思う。</p> <p>(委員長) 「寝たきりであっても安心して過ごせる宝塚」といった広い概念で基本理念を考えていければと思う。</p> <p>(委員) 「お互いの可能性を認め合い」という記述は厳しい印象を受ける。「お互いの人格・存在を尊重しあい」が良いと思う。「高齢者の持つ潜在能力を開拓し」というのは高齢者にもっと頑張れと言っているような印象を受ける。</p> <p>指針 2 つというのが天秤棒のようでバランスが悪く感じる。3 つ目の指針に、市民全体の生活の質が上がる、という記載を入れたらどうかと思う。市民全員の生活の質を上げるということを謳えば後がスムーズになると思う。</p> <p>(委員) エイジフレンドリーシティ行動計画の宝塚市版としては、寝たきりの方も「いらっしゃることの影響」があるものとして考えていきたい。</p> <p>(委員) 元気な人が対象である印象を受けるので、弱者であっても楽しく生きられるという文言を入れた方がいいと思う。</p> <p>(委員) 自助・互助・共助・公助という項目が出てきているので、例えば今言われたようなことであれば公助の中に含まれていると思う。</p>

QOLという言葉も意味があり、全ての高齢者にその現状に合ったような形のQOLを考えようということで、私はこれで切り捨てられているような印象は受けていない。

(委員) 自主・自立・協働・共助を謳うシルバー人材センターの理念・活動そのものであるという印象を受けた。

(委員) 可能性を認め合いというのは、固いし、曖昧な表現であると思う。尊重して支えあうというような文言が入ればと思う。

(委員長) 潜在能力という言葉はきついで、事務局に考え直していただければと思う。

(委員) 指針1、2の記載はくどい印象があるので、それぞれ上の二段落は無くてもよいと思う。

(事務局) 行政に対して変化を促したく、このような表現にした。

(委員長) 簡略化するようにお願いしたい。

(委員) キャッチフレーズの位置づけを教えてください。これでいいかどうかを議論する必要があると思う。

(委員長) 直訳として「高齢者に優しいまち」という言葉が定着しているが、優しいという上から目線な印象もある。そうではないのではないかという思いがあった。フレンドという対等な人間関係を意味するが、対等な人間が「お互いさま」として関わりあえるまちということであると思い、提案させていただいた。

・第5章 計画の推進体制について

(委員長) 自助・公助・共助・互助の説明文はどこから引用したか。「自ら働いて」「自らの年金収入」という表現であるが、私が厚労省の地域包括ケアシステムの説明をこれらの文言についてチェックしたところ、「自分のことは自分でいり自らの健康管理を行えること」「市場サービスも自分で購入することができる」等の表現であった。これは難しいと感じた。

(事務局) 調べ直したいと思う。

(委員) 「自分ができない場合は地域の方に声をかけ、それができない場合は公的な機関に声をかけなさい」というようになっているが実際にはそうではない。一人の方について、自助・互助・公助する部分と色々な部分が混じって出来上がるものである。これを段階的に見せるというのは違うと思う。

4つある中で互助が意識的に取り組まないといけない部分であると思うが、互助の話をもう少し書いてもよいと思う。6ページは共助の話しか出てきていない。

(委員長) 実際にはこの4つが絡まっている。絡まっているところにも説明がある資料もある。十字に切るとこの人は自助でできる人と言われたようにレッテルを貼っている印象を受ける。

これからの社会は財政的な部分からもあるが、上の自助・互助の部分の割合が大きくなっていくことも色々なところで書かれて

いる。まずは自分でやる必要があるというのは当然の話であるが、そういう話を入れる必要があると思う。

貧しくなったから受けるというものを公助というのではなく、一般財源から支出するものを公助という。生活保護や虐待があった時に守っていくと。介護保険は一般財源でなく共助にあたる、といった説明の方がわかりやすいかと思った。

(委員) 生活の質を上げることは、この4つが絡まないと実現できないと思う。そのために行動計画があると思う。これらをつなぐ作業が必要であると思う。

(委員長) この委員会は行動計画を策定する委員会であり、答申が終わり、行動計画が出来た後に、推進委員会が改めて設置されるということをここで確認しておきたい。この推進委員会は計画を進めていくのか、計画に関する報告を受けるだけなのか。

(事務局) この図については推進検討会や協働の主体はもう少し混じるようなイメージであると思う。要はそのやり方を考える必要がある。協働ではそもそも多様な主体と市で並んで検討する必要がある。協働においては監督という立ち位置ではないと思われるので、こういう図にすると、評価する側に分断されるのだが、協働というのはそういった形には済まないと思う。報告をし合い、アドバイスをしあう協議体であると思う。

(委員長) 推進していくのは4つの自助・共助・互助・公助であるということを行っているので、下の図だけでいいのではないかと。

(委員) ハード面でわかるバリアフリーは評価しやすいが、まちが元気か、市民が元気かということは図るのが難しい。市が思いもしなかったことが起こるとよい。となると、市がやることのメニューが増えないといけない。例えば、活動団体全体に全体で1千万円程、支援を行っている自治体があるが、そういった制度に何団体応募してくるか等、評価できる施策があればと思う。

(委員) 推進体制図では、どこが何をするのか主体が見えない。部局横断的な視点に立ちとあるが、それぞれの権限がどこまであるのか、何を検討するのかを明確にしないといけないと思う。

(2) 各論の検討について

①各論の構成について

②各論(案)について

(委員) 8つのトピック全てに取り組むのではなく、5つや3つ取り組む等の選択肢もあると思う。

(委員長) 例えば、今回の3つのうち、これは要らないのではという意見が出てもいいと思う。私の思いとしては8つが同等ではなく、その中で特にこれをやりたいという項目を作ることができればと考えている。

(委員) 確認したいのだが、ここに色々と事業を書いているが、各担当課

の事業に対してこういう視点でやってくださいということを行う
答申をすればよいのか。施策提案をするのか、担当課の提案施策
を評価する立場であるのか。

(事務局)「現在取り組んでいる施策」については各担当課で記載したもの
である。議論いただきたいのはその下の点線で囲った部分である。
トピックに照らしてこのあたりを重点的にしたいというものである。

(委員) 全体像として言っても担当部署にそれぞれ落ちていくというわけ
か。専門的な方が各部署にいるにも関わらずここで思い付きでは
ないが意見を言うと、受け取られた方は違和感があると思う。お
互いに尊重していないと思う。

(委員) もともと、策定委員会というのは WHO に提出するためのものでは
あるので、宝塚ではこうしたいという方向性を出すと良いのではない
か。庁内推進検討会は実行部隊であるからその場では色々な実
際的な意見があっていると思うが、この策定委員会で考えるのは
少なくとも「宝塚市としてはこういうことをやりたい」という答
申をする場ではないのか。我々は大本を考え、それに沿う形でで
きるだけ行動してくださいというものであると思う。

(委員) 8 ページの「基本的な考え方・特徴」を議論すればいいのではな
いか。各部署はどういうことをやっているのかということを読み
上げればいいのではないか。「理想はこうだが実際はこうである。
ただ、ここまではやってください。」ということを行う役割が私の
提案である。

(委員) 各部署がそれぞれに小さな予算を投入しても進まないと思うので、
「このまちはエイジフレンドリーシティの成果がこういった部分
に表れている」ということを最後に言える答申を出したらいいと
思う。

(委員長) 宝塚を美しくする市民運動を除くとあとは基本的には施策であ
り、公助の取組である。公助でなく4つの協働により行うという
考え方を考へようとしている時に、公助にあたる市の施策だけを書
くのはおかしい。とりあえずここでは行政だけの取組を書くもの
とするのか検討が必要であると思う。

(事務局) むしろ公ではない部分を膨らますことが必要であるという前提
が根底にあるので、そこをどう提案していくかを議論いただきた
い。

(委員) 考へる材料として、あいあいパークの公園では今、犬の入らない
スペースを設けようとしている。いつまで経ってもそれは実現さ
れない。そういうことができるような施策を考へてほしい。市が
一律管理をしているからである。

(委員) そういうことが実現できる施策がここに書き込めればいいと思う。

(委員) 管理委員会に市民、行政が入り、意見交換ができるような場があ
ればと思う。

(委員) 市が管理している公共スペースを市民が使おうとする時、いつも障害がある。川は使えない、橋の上は障害がある。それに対して宝塚市がどういう姿勢で取り組むのかということもある。

(委員) ただ、市民のモラルというところもある。

(委員) それこそは互助の話で、お互いにというところが出てくると思う。

(委員長) 各論でこういうことしか書けないのであれば、総論をまた変えていかないといけないということになってくる。総論で4つの助を実施していくと書いたので、そういうことができるような仕組みづくりを各論で提案する必要がある。

(委員) 17ページを見ていると委員会はあと3回実施しないといけないので、今回で総論は終えないといけないと思う。5章、6章を検討しないといけないというスケジュールであると思う。運営は庁内推進検討会が進めるということになる。

(委員) 我々としては庁内推進検討会では何の議論があるのかという情報もほしい。

(委員) 提案をする以上、もう少し宝塚らしい特徴のあるものを出さないといけない。

(委員) 例えば、トピック1の「宝塚市の現状」において、「駅やコンビニなどの事業者が提供しているトイレが、市の財源不足により未整備なトイレの代替として活用されている」とあるが、代替とする必要はない、それは互助だからと思う。高齢者が住宅地を散歩してトイレに困った時の貸しトイレなど色々考えられ、そんな提案はここではどうでもいいのかもしれないが、姿勢は示したいと思う。その姿勢が無いなかで民間を変えなければならない、大変だと言われるとあれと言われる。

(委員) 市民トイレという制度がなぜここで書かれていないのか。

(委員) そういうことをありがたいと思って書かないといけないと思う。

(委員) それは宝塚らしさであると思う。

(委員) トイレの問題であれば、自助ならどうすることができるのか、互助なら…と考えていくことができる。

(委員) そういう姿勢を示すものであると思う。

(委員) 個々の議論は庁内推進検討会でやっていただき、我々は大本を考えることができればと思う。

(委員) 現状と課題は、全国共通のものである。宝塚はこういったところに特徴があるというのが見えると、意見も出しやすいと思う。トイレの問題であれば市民トイレがあるとか、じゃあこういう取組ができる等、絞った議論ができると思う。

(委員) 安倉の上の池公園が都市公園の第一号でトイレも付けられたが、便器が壊され、撤去されてしまった。市民のモラルも上げていく努力もしないといけない。末広中央公園のトイレは夜にシャッターが閉まるようになっている。ところが、この頃はジョギングを朝早くからするようになるから開けるようにという議論も出てき

た。1人、2人の市民のためにすぐに市も動く。この人のために早く上げるとそれだけコストもかかるがなかなかそれを断り切れていない。

(委員長) 事務局で仕切りなおしていただきたい。

(委員) 今、何人かの委員の方が言われたことが基本的な考え方に盛り込まれてきたら、それが各論になってくるのではないかと思う。市民が管理し、使えるような、商店でよく言われるワンストップショッピング的な考え方も入れていくと、各部局で言われるようなトイレを作る人、維持管理する人、雇う人などが各部局で出てくるのではないか。そうすると下の部分が不要になると思う。

(委員) 「今後、拡充または実施計画する事業」というのは、これは行政がやるものか。ここに宝塚らしさを入れてもらえればと思う。

(委員) 行政計画として行動計画を作るわけであるから、こういう形でエイジフレンドリーに資する事業はこうであると、まとめて、公助以外の部分については、理念的にこうであると謳われている訳であるから、そういう活動はそれぞれの組織でやるのが望ましいという形にしないと、全部やるとなるととても難しい。宝塚のエイジフレンドリーは今やっている施策の中でもこういう所に重点を置くと、いう形の方がシンプルでいいと思う。

(委員) 既存の取組に囚われることはないと思う。

2 その他

(1) 平成28年度の予定について

(2) 次回の開催日程

市民対象のエイジフレンドリーシティ講演会を7月28日(木)に実施することを連絡した。

次回の日程は、7月前半とし、事務局より連絡することとなった。